

第59期 中間報告書

平成30年4月1日 至 平成30年9月30日

59th 2nd. QUARTERLY REPORT



日立精工株式会社

証券コード 7927

ムトーは、最適製造・最適調達を ワールドワイドに展開します。

当社は、射出成形用金型の設計・製作及び精密プラスチック部品製造の分野において、長年高い技術を築き上げてきました。急速に発達する3D設計やNC加工を取り入れ、コア技術に更なる磨きをかけ、確かな品質の製品をお客様へお届けします。金型製作の高い技術力とグローバル供給網を“強み”に、アジアから世界へ、成長市場・新規市場へと事業領域の拡大を推し進め、高収益体質を目指します。

超精密製品製造に 対応する体制

24時間体制の自動化ラインでニーズに柔軟に応え、品質向上とコスト削減を実現しています。また、形状や規格等、お客様から求められる厳しい検査基準に対し、高い計測技術で応えています。



金型から造る技術力

成形品の量産に加え、お客様のご要望に応じて、上流工程の企画・設計段階から参画し、研究開発・試作金型の製作から金型単体の外販に製するまで事業の領域を拡大させ、収益の幅を広げていきます。



プラスチック 射出成形の 一貫生産

顧客に近いアジア地域 での圧倒的な生産力

現在、製品の6割をアジア地域で生産しています。日本と海外の各生産拠点で金型設計・加工データを共用できるネットワークを構築。低コストでシームレスに金型設計からプラスチック成形品を量産できる生産体制は、お客様から高く評価されております。



環境配慮も 追求した塗装・組立

顧客の求める環境基準への適合はもちろんのこと、「取り組もう環境保全・大地の恵みを次世代へ」を環境スローガンに、社員教育の徹底や各工程における環境汚染物質、廃プラスチックの削減を実行しています。





株主・投資家の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの第59期第2四半期（平成30年4月1日から平成30年9月30日）が終了いたしましたので、ここに事業の概況と中間決算についてご報告申し上げます。

平成30年12月

代表取締役社長

田中 肇

第59期上期を振り返って

事業環境と業績レビュー

第59期上期は、ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.において新工場が立ち上がり、プリンター部品の増産が続いております。また、東南アジア方面での需要を背景に、ムトー(タイランド)CO.,LTD.では一眼レフカメラ向けの部品が好調で、利益を確保しております。

しかし、取引先の受注減に伴い、主要なセグメントであるプラスチック成形事業で売上が減少いたしました。特に、自動車部品やスマートフォン向けの電子ペン部品の売上は、減少傾向にあります。

当社グループにおきましては、付加価値の高い製品の受注と省力化に向けた生産体制の強化を図ってまいりましたが、人件費をはじめとする固定費の高止まりが続いております。

その結果、第59期上期における業績は、売上高は122億6百万円(前年同期比7.0%減)、営業利益は5億4千4百万円(前年同期比42.7%減)、経常利益は7億9千万円(前年同期比16.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億7千9百万円(前年同期比39.1%減)となりました。



2018年8月 ムトーテクノロジーハノイ新工場完成

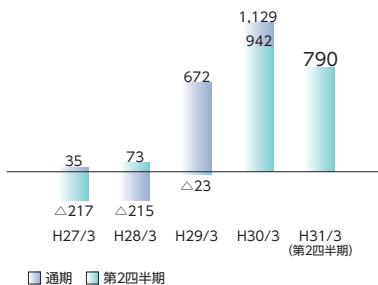
◆売上高

単位:百万円



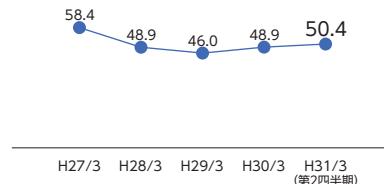
◆経常利益

単位:百万円



◆自己資本比率

単位:%



今後の展望と通期の業績見通し

自動車関連部品の売上は、底堅く推移するものと思われます。特に、昨今のEV化加速に伴い、プラスチック部品の需要拡大が見込まれますので、引き続き経営資源を集中してまいります。カメラ関連部品につきましても、一眼レフカメラをはじめとする高位機種需要は強く、今後も安定した受注が見込めると考えております。

また、金型販売につきましては、当社グループの金型技術力を活かし、より一層強化できるよう、グループ会社各社と連携して尽力してまいります。

一方、世界経済は米中を中心に回復基調にあります。貿易摩擦や地政学的リスクなど、景気を左右する外部要因も考えられます。景気の急な変化に素早く対処できるよう、今後の動向に注意してまいります。

以上の要因を踏まえ、通期の連結業績は、売上高250億円、営業利益9億円、経常利益8億5千万円、親会社株主に帰属する当期純利益6億円を見込んでおります。

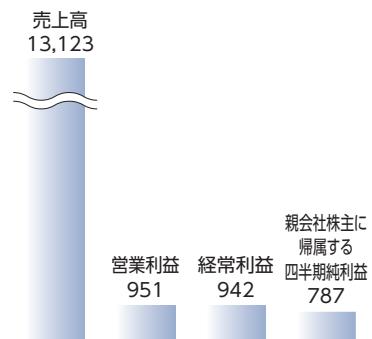
株主の皆様へメッセージ

当期上期までは、全社一丸となり、不良削減など利益率を重視し、予想より好調な損益で推移しております。通期に向けて、安定した収益により十分な内部留保を確保できるよう、一層の経営基盤・財務体質の強化に努めてまいります。また、今後新たな問題が発生しないように、経営資源を集中させ、グループ全体の管理体制を構築してまいります。

今期の配当金につきましては、既に発表済みである17円(通期)の配当を行う予定です。利益を確保できる体制の整備や金型外販・試作の強化に加え、新規分野・新規顧客の営業に注力し、収益拡大へつなげていくことで、株主の皆様の期待にお応えしたいと考えております。株主の皆様におかれましては、長期的な視野に立って、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

収益の状況(連結)

(単位:百万円)



H30/3 第2四半期

(単位:百万円)



H31/3 第2四半期

資産の状況(連結)

(単位:百万円)



H30/3 期末

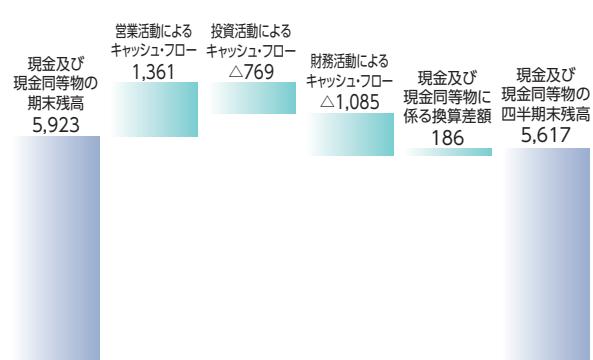
H31/3 第2四半期末

H30/3 期末

H31/3 第2四半期末

キャッシュ・フローの状況(連結)

(単位:百万円)



H30/3 期末

H31/3 第2四半期末

新しい価値を生み出す

グローバルダイバーシティを目指して

ムトーグループのタイ、ベトナム、中国、マレーシアにある海外工場では、日本人技術スタッフ16名の支援のもと4,439名(平成30年9月現在)が活躍しています。

当社はグローバル市場における成長を目指し、多様な人材を最大限に活かせるよう努めており、ムトーグループで働く誰もが活躍できる土壌づくりに積極的に取り組んでいます。

■ ムトーテクノロジーハノイ工場強化

ベトナムは、親日国であり、かつ勤勉な国民性であることから、数年前からチャイナ+1の最優先国として注目されており、中国からの生産移管が増え各メーカーの生産数量も増えています。さらに近年は、タイランド+1ともささやかれ、タイの部品調達国となりつつあり、現在東南アジア諸国のなかで一番活気がある国となっています。

また当社では、ハノイ近郊のプリンター部品や自動車部品業界からの受注が年々増加しています。ムトーテクノロジーハノイでは得意先への安定した製品供給に対応するため、敷地内の第3エリアに新倉庫を建設し、第2工場内に設備投資用エリアを確保しました。成形機は約140台を整備し、増設に伴い生産能力は50%増加すると見込んでいます。お客様に価値のある製品を提供するため、金型・成形の強化に努めています。



ムトーテクノロジーハノイ工場(上)社員(下)

「従業員ファースト」を掲げアジアの発展に貢献

ムトーグループでは「従業員ファースト」を掲げ、従業員の満足度向上のため福利厚生を充実させ、「魅力ある職場づくり」に取り組んでいます。

■ 働きやすい職場環境づくり

当社は、人種、宗教、国籍などによる差別のない雇用の促進に努めています。

例えば、慰安旅行や忘年会などを通じ、従業員間の交流やコミュニケーションを増やしております。また、ムトーテクノロジーハノイの社員食堂では、誰もが安心して食事を楽しめるよう、複数のメニューを提供しています。その他の拠点においても、多種多様な従業員や来客に宗教面でも配慮し、食事や社内設備の充実に取り組んでいます。



従業員昼食時食堂(上)
慰安旅行(左)

■ SGH(スーパーグローバルハイスクール)事業への協力

未来の技術者育成のため、毎年ムトーベトナムとムトーテクノロジーハノイでは、日本の高校の工場見学の受け入れを行っています。現地の技術者との交流を通じ、ベトナムの日系企業や社会情勢などへの理解・関心を深めてもらうことで、グローバルに活躍する人材育成に貢献しています。



2017年12月 岐阜県立大垣北高校の皆さんと(ムトーテクノロジーハノイにて)

➡ 会社概要

商号	ムトー精工株式会社	
本社所在地	岐阜県各務原市鷺沼川崎町1丁目60番地の1	
ホームページ	http://www.muto.co.jp/	
創業	昭和31年6月	
資本金	2,188百万円	
従業員数	連結4,721名	個別223名

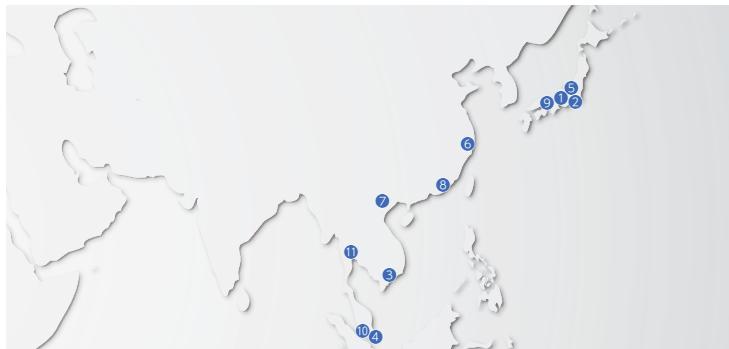
➡ 事業の内容

当社は、プラスチック成形用金型及びプラスチック精密部品の製造・販売、各種設計業務並びに技術支援等のサービス業務、プリント配線基板の設計・検査・販売及び精密プレス部品の製造・販売を行っております。

高度な専門技術を中心に、金型設計から金型製造、プラスチック成形、二次加工として塗装 (UV)・印刷・レーザーカット、そして最終工程の組立までの一貫生産を行っております。

また、海外戦略として、本社工場をマザー工場と位置付け、中国・東南アジア方面へ生産拠点のグローバル化を推進し、最適製造・最適調達システムをワールドワイドに展開しております。

➡ グローバルネットワーク



- ① 本社
- ① 岐阜工場
- ① テクニカルセンター
- ② 東京営業所
- ③ ムトーベトナムCO.,LTD.
- ④ ムトーシンガポールPTE LTD
- ⑤ 大英エレクトロニクス株式会社
- ⑥ 豊武光電 (蘇州) 有限公司
- ⑦ ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.
- ⑧ 武藤香港有限公司
- ⑨ タチバナ精機株式会社
- ⑩ ハントンスプリンディング・ストリーズSDN.BHD.
- ⑪ ムトー (タイランド) CO.,LTD.

➡ 株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式の総数	7,739,548株 (自己株式552,784株を含む。)
株主数	2,720名

➡ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
田中肇	484	6.74
ノーザン トラスト カンパニー	330	4.60
株式会社大垣共立銀行	328	4.58
株式会社十六銀行	270	3.77
名古屋中小企業投資育成株式会社	247	3.44
ビービーエイチ フォー フィデリティロー プライズド ストック ファンド	238	3.31
ムトー精工従業員持株会	222	3.09
株式会社三菱UFJ銀行	220	3.06
国立大学法人岐阜大学	200	2.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	157	2.19

(注) 1.当社は、自己株式552千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記の大株主から除いております。
2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。